



PHNOM PENH

# TOKYO

AIR CAMBODIA  
STARTS FLIGHTS  
TO JAPAN





## GC Orussey Market

### 建設進捗報告

#### プロジェクト引き渡し延期について

拝啓

平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。  
皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

このたび、カンボジアとタイの国境付近における緊張の高まりにより、原材料の輸送に深刻な支障が生じております。

また、社員および関係者の安全を最優先とするため、一部の経営幹部および技術スタッフを一時的に他地域へ避難させております。

これらの不可抗力により、当初の建設スケジュールに大幅な遅延が発生しております。

慎重な検討の結果、誠に遺憾ながら、プロジェクトの引き渡し予定日を2026年12月31日へ延期させていただくこととなりました。

お客様には多大なるご不便とご心配をおかけいたしますことを、心よりお詫び申し上げます。

何卒ご理解とご寛容を賜りますようお願い申し上げます。

当社は、情勢が安定次第、速やかに工事を再開し、品質と安全を確保しつつ進捗を加速させるよう最善を尽くしてまいります。

今後の状況につきましては、隨時ご報告申し上げます。

ご不明点やご質問がございましたら、どうぞお気軽にお問い合わせください。  
引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

# プロジェクト引き渡し延期に関する遅延証明書 (英語原本)



## IMPORTANT NOTICE REGARDING PROJECT DELIVERY DELAY

Dear Valued Customer,

Thank you for your continued trust and support for our project. We hope this message finds you and your family safe and well.

We are writing to inform you that due to the recent tensions along the Cambodia-Thailand border, the transportation of raw materials has been severely disrupted. Additionally, to ensure the safety of our personnel, some senior management and technical staff have been temporarily relocated. These force majeure circumstances have significantly impacted the normal construction schedule of the project.

After careful assessment, we regrettably must postpone the delivery date of the project to December 31, 2026. We fully understand that this delay may cause inconvenience, and we sincerely apologize for any disruption this may cause. Your understanding and patience during this time are greatly appreciated.

We remain committed to resuming work as soon as the situation stabilizes and will make every effort to expedite progress without compromising the quality and standards of the project. We will keep you updated on any further developments.

Thank you for your kind understanding. Should you have any questions, please do not hesitate to contact us.

Wishing you good health and happiness.

Sincerely,

**GC ORUSSEY CO., LTD**

Date: 13.12.2025



2025年10月9日

## GCC香港、中秋節イベント「Moon Rabbit Reunion」を開催

GCC香港は10月9日、中秋節を祝うイベント「Moon Rabbit Reunion」を開催しました。当日は、多くの参加者が集い、月やウサギをモチーフにした演出のもと、和やかな雰囲気で中秋節を楽しみました。GCCのスタッフが、中国の月の女神「嫦娥（じょうが）」や、伝説の英雄「后羿（こうげい）」に扮し、イベントを盛り上げました。





CAMBODIA  
MY 2ND HOME

## Latest Information

2025年10月10日

2025年10月10日、CM2HとKHCAの合同チームは、国立乳幼児センターを訪問し、支援を必要とする子どもたちに愛と笑顔を届けるチャリティーアクションを行いました。当日は、寄付金や生活用品の提供に加え、ボランティアによるゲームや交流の時間を通して、子どもたちと心温まるひとときを過ごしました。子どもたちの笑顔に触れ、私たち自身も「支えることの喜び」と「つながることの大切さ」を改めて実感する一日となりました。

今回の活動にご協力くださいました皆さま、また温かいご支援をお寄せくださいましたすべての方々に、心より感謝申し上げます。私たちは今後も、地域社会への貢献と支援の輪を広げてまいります。



# CAMBODIA

---

## LATEST INFORMATION

2025年11月27日

### 教育におけるAIのための国立研究センターが開設



カンボジア政府は「AI for Education National Conference 2025」において、教育分野におけるAI活用を推進する国立研究センターを正式に開設しました。式典には、ハン・チュオン・ナロン教育・青年・スポーツ相および関係閣僚が出席しました。同センターは、AIを活用した教育手法や学術研究、デジタルツールの開発拠点として、全国的な教育の質向上や政策立案に寄与することが期待されています。政府は、AIを国家発展の重要な要素と位置づける一方で、利点とリスクの均衡を図る包括的な政策の必要性も強調しました。

出典：National Research Centre for AI in Education opens

2025年11月26日

### 影絵芝居、ユネスコ世界遺産登録から20年



カンボジアの伝統芸能である影絵芝居「スバエク・トム (Sbek Thom)」が、2005年11月25日にユネスコ無形文化遺産代表一覧表に登録されてから、今年で20年を迎えました。スバエク・トムは、神話や叙事詩を描いた革人形を用いる歴史ある芸能で、カンボジア文化の象徴として国際的に高く評価されています。現在は現代技術も取り入れながら継承が進められており、文化省関係者や人形遣いは、若い世代にこの芸能の魅力を伝えるため尽力しています。

出典：20 years of shadow theatre on UNESCO World Heritage List

2025年11月22日

### 長期的にエア・カンボジア、少なくとも30機が必要か



カンボジア民間航空当局のシン・チャンセレイヴァ報道官は、長期的にはカンボジアのナショナルエアラインに少なくとも30機の航空機が必要になるとの見解を示しました。今後10~20年の市場需要を見据え、小型・中型機を中心に機材拡充が求められるとしています。ASEAN域内の短距離路線では中国製航空機などを活用し、4~8時間の長距離路線ではエアバスやボーイング機の導入が適切だと述べました。

出典：In the long term, Air Cambodia may need at least 30 aircraft

## 2025年11月21日

### カンボジア赤十字社と日赤広島支部、青少年交流計画を最終決定



カンボジア赤十字社（CRC）と日本赤十字社広島県支部は、青少年交流プログラム実施に向けた準備を最終決定しました。プログラムでは、2025年12月16日から22日にかけて、広島県支部の青少年および職員15名がシェムリアップ州とプノンペンを訪問します。両者は2025～2029年の5年間の協力覚書を締結しており、本交流は若者育成と人道分野での協力強化を目的としています。環境保護や保健、安全、文化交流など参加型活動が予定されています。

出典：CRC and the Japanese Red Cross Society Hiroshima Branch finalise plans for youth exchange programme

## 2025年11月16日

### アンワル氏、タイ・カンボジアの平和・緊張緩和への再確認を歓迎

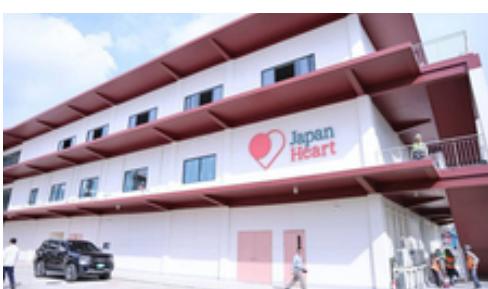


マレーシアのアンワル・イブラヒム首相は、カンボジアとタイが平和的解決と緊張緩和に向けた姿勢を改めて示したことを歓迎しました。両国は対話と外交を重視し、クアラルンプール和平合意の履行を加速させる方針です。国境地帯からの重火器撤去や地雷除去での協力も確認されました。アンワル首相は、米国の建設的な関与も評価し、両国関係修復への重要な一步だと述べました。

出典：CRC and the Japanese Red Cross Society Hiroshima Branch finalise plans for youth exchange programme

## 2025年11月01日

### ジャパンハート、カンボジアで無償医療提供と小児医療センター開設



国際医療支援団体ジャパンハートは、2024年10月30日、カンダール州タクマオ市のチェイ・チュムネアス基幹病院において、カンボジアの子どもたちを対象とした無償医療支援活動を実施しました。活動に対し、カンダール州のクオッチ・チャムルーン知事が医療チームと面会し、感謝の意を表しました。同団体は病院敷地内に3階建ての小児医療センターを新設しており、200床規模と最新手術室を備えています。本事業は、日本および現地支援者の寄付により実現しました。

出典：Japan Heart delivers free medical care and a new pediatric centre to Cambodian children

## 2025年10月27日

### 世界的経済不安の中でも堅調なカンボジア銀行システム



カンボジアの銀行セクターは、世界的な景気減速や金融不安の中でもASEAN地域で最も安定した市場の一つとして注目されています。国家銀行（NBC）の柔軟な金融政策により、為替とインフレを安定的に維持し、総資産は約970億ドルに拡大。預金は14.5%増加し、金融機関の流動性も堅調です。リエル利用促進や預金者保護制度の整備が進み、投資環境は一層改善。中小企業や不動産、マイクロファイナンス分野も堅調で、デジタル金融化が加速。堅実な政策運営と経済基盤が投資家の信頼を支えています。

[出典：How Cambodia's banking system holds firm amid global economic uncertainty](#)

## 2025年10月26日

### Air Cambodia、日本便を開始 | カンボジアと日本を結ぶ初フライト実現



2025年10月26日、カンボジアの国営航空会社「エア・カンボジア」は、中国福建省福州経由で日本との初フライトを実施しました。コロナ禍以降停止していた日カ間の定期便再開は、観光・貿易・物流・文化交流の促進を目指す政府の大きな成果です。マオ・ハヴァンナル航空担当国務大臣は、この便が経済多様化と競争力強化に寄与すると強調。日本大使の上野篤史氏も、両国関係を包括的戦略的パートナーシップのもとでさらに深める重要な一步と述べました。直行便再開により、移動時間短縮と利便性向上が期待され、日本からの投資や雇用拡大にもつながる見通しです。

[出典：Air Cambodia starts flights to Japan](#)

## 2025年10月26日

### 投資優遇でカンボジア北東部経済を変革へ

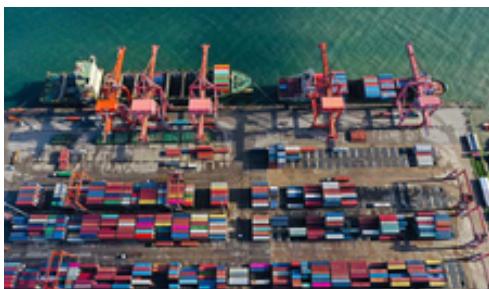


カンボジア政府は、経済発展が遅れていた北東部4州（クラチエ、ストウントレン、ラタナキリ、モンドルキリ）への投資促進を目的とした特別プログラムを始動。農業・アグロ産業・観光を重点分野とし、投資障壁の解消と地域統合を推進します。主要作物であるゴム、キャッサバ、カシュー、ナツツ、イエローバナナなどが農業変革の鍵となるほか、自然・文化資源を活かした観光振興も期待される。最大12年間の所得税免除や各種税の優遇、低利融資、ワンストップ投資手続きなどの支援策を導入します。2025年に税登録を行う企業には罰金・延滞税の免除も適用されます。政府は、ハン・マネット首相主導の持続的地域開発の一環として、北東部経済の新たな成長エンジン創出を目指しています。

[出典：Investment perks to transform Cambodia's northeastern economy](#)

## 2025年10月22日

### RCEP加盟国との貿易額、9か月で295億ドルに到達



出典：[Cambodia's trade with RCEP countries hit \\$29.5 bln in first 9 months of 2025](#)

2025年1~9月のカンボジアとRCEP加盟国間の貿易総額は295億ドルに達し、前年同期比15.5%増となりました。商業省の報告によると、輸出額は74億3,000万ドル(+10%)、輸入額は220億7,000万ドル(+17%)に拡大。RCEP諸国はカンボジアの総貿易量の61.6%を占める主要市場であり、中国、ベトナム、タイ、日本、シンガポールが上位5か国です。商業省ペン・ソヴィチエア報道官は「RCEPは長期的な輸出成長と外国直接投資誘致の原動力」と強調。2022年に発効したRCEPは、ASEAN10か国と中国、日本、韓国、豪州、NZを含む世界最大の自由貿易協定です。

## 2025年10月22日

### 韓国KB国民銀行、カンボジア経済の将来成長に強気



出典：[Korean bank bullish on Cambodia's future growth](#)

カンボジア国立銀行(NBC)のチア・セレイ総裁は、韓国最大手KB国民銀行のイ・ファンジュ社長率いる代表団と会談を行い、韓国側の長期的な投資意欲が改めて確認されました。イ氏は「カンボジアの安定した投資環境が、我々の現地子会社KBプラサック銀行への長期支援を後押ししている」と述べ、カンボジア市場を韓国投資の成功モデルとする意向を示しました。両者は経済見通し、金融安定、サイバーセキュリティ、越境決済などについても意見交換しました。専門家は「韓国とカンボジアの対話が続くことが投資機会拡大の鍵」と指摘し、韓国投資家向けビザ免除などの実務的支援を提案しました。2025年上半期のNBC報告では、銀行・金融機関の総資産は約971億ドルに達し、堅調な成長と安定性を維持しています。

## 2025年10月15日

### カンボジア経済の手応え：2025年第4四半期に向けた企業マインドと景況感



出典：[Getting a Pulse on Cambodia's Economy And Business Sentiment Heading into Q4 2025](#)

カンボジア政府と民間調査機関の最新データによると、2025年第4四半期にかけて同国の経済成長は前年の6%水準から4.8~4.9%に鈍化すると見込まれています。輸出が1~9月期に約223億ドル(前年同期比+12.9%)を記録し、機械設備・電気機器・鉄鋼の輸入も大きく伸びています。一方、建設・不動産セクターでは一部で調整局面に入っています。企業の拡張意欲にも慎重な姿勢が見受けられます。調査によれば、食品・農業分野のみ明確に成長期待が高く、他セクターは横ばいまたはやや弱含み。政府の改革推進、新空港開港などインフラ整備の進展が注目されるものの、輸出依存と地域的リスク管理が今後の鍵となる情勢です。

## 2025年10月14日

### カンボジアは日本との関係強化が不可欠 — RACアナリストが指摘



出典：[Cambodia needs stronger ties with Japan to navigate Indo-Pacific transformation, says RAC analyst](#)

カンボジア王立研究院（RAC）の政策アナリスト、ソウン・サム氏は、変化の激しいインド太平洋情勢の中で、カンボジアは日本との戦略的パートナーシップをさらに深化させるべきだと強調した。日本政府の招きで10月5～11日に沖縄などを訪問した同氏は、日本の外交姿勢、開発戦略、統治制度に触れ「日本は信頼できるアジアの民主的パートナーであり、長期的成長のモデルとなる」と述べた。サム氏は1990年代以降、日本がカンボジアの平和構築やインフラ整備に貢献してきたことを評価し、「対立ではなく信頼と包括性に基づく日本外交から学ぶべき」と指摘。ASEANの中心性を維持しつつ、多角的な同盟関係を構築することの重要性を訴えた。

## 2025年10月13日

### CMAC局長、日本の地雷除去支援継続を要請



出典：[CMAC chief calls for continued Japanese support in landmine action](#)

カンボジア地雷除去センター（CMAC）のヘン・ラタナ局長は、国際協力機構（JICA）の田中明彦総裁とプノンペン本部で会談し、地雷除去分野での協力深化を確認しました。ラタナ氏は、カンボジアの戦争の歴史や不発弾問題の現状を説明し、日本が支援する「南南協力プロジェクト」を通じて他国と除去技術を共有していることを報告しました。今後5年間、オタワ条約延長期間（～2030年）における継続支援を要請した。過去27年間、JICAの支援により50台以上の重機を含む装備が供与され、除去活動が大きく前進したといいます。田中総裁はCMACの努力を高く評価し、同機関をカンボジアの地雷対策分野を牽引する存在と称賛しました。

## 2025年10月11日

### カンボジアの輸出、2025年1～9月で前年同期比+12.9%



出典：[Cambodia's export up 12.9 pct in first 9 months of 2025](#)

2025年1月～9月期において、カンボジアの輸出額は約223.9億ドルとなり、前年同期間（約198.3億ドル）から12.9%増加しました。 主な輸出先は、米国、ベトナム、中国、日本、カナダで、衣料・靴・バッグ・旅行用品、自転車、タイヤおよび農産品（米、ゴム、キャッサバ、カシュー、ナツツ、バナナ、マンゴー、ロンガン等）が中心です。輸入額も約246.1億ドルで、前年同期比16.6%の増加を記録し、主に石油・ガス、衣料製造用原材料、車両、機械、電子機器、医薬品、消費財が多くを占めています。輸出・輸入の両面で成長が見られ、製造・加工・農業分野などの産業競争力が高まっていることを示しています。

## 2025年10月10日

### AMRO、カンボジアの2025年成長率を4.9%と予測

Country	GDP Growth			Inflation	
	2024	2025F	2026F	2024	2025F
ASEAN+3	4.3	4.1	3.8	1.2	1.0
Indonesia	4.1	4.0	3.7	0.7	0.6
China	5.0	4.8	4.4	0.2	0.0
Hong Kong, China	2.5	2.4	2.0	1.7	1.8
Japan	0.1	1.0	0.6	2.7	3.0
Korea	2.0	0.9	1.7	2.3	2.0
SEAN	4.9	4.6	4.3	3.0	2.5
Brunei Darussalam	4.1	1.2	1.8	-0.4	0.0
Cambodia	6.0	4.9	5.0	0.8	2.6
Indonesia	5.0	5.0	4.9	2.3	1.9
Lao PDR	4.3	4.4	4.2	23.1	8.5
Malaysia	5.1	4.3	4.0	1.8	1.6
Myanmar	2.9	3.0	1.5	29.6	30.0
The Philippines	5.7	5.6	5.5	3.2	1.8
Singapore	4.4	2.6	1.7	2.4	0.9
Thailand	2.5	2.2	1.9	0.4	0.5
Vietnam	7.1	7.5	6.4	3.6	3.3

出典：AMRO projects Cambodia's growth at 4.9 percent in 2025

ASEAN+3マクロ経済調査事務局（AMRO）は、カンボジアの2025年の経済成長率を4.9%と予測しております。インフレ率は2.6%にとどまり、翌年には2.3%へと緩やかに低下する見通しです。報告書では、ASEAN+3地域全体の成長が堅調に推移するとしつつも、米国の関税政策や輸出依存型企業への影響、デジタル化による金融リスクへの注意が必要であると指摘しています。AMROは、各国が堅実な金融体制と政策余地を活かし、持続的な成長と安定を両立させることの重要性を強調しております。

## 2025年10月10日

### カンボジア、2025年の経済成長率は5%を見込む—副首相が発表



出典：Cambodia to achieve 5 pct economic growth in 2025: deputy PM

カンボジアのヴォンセイ・ヴィソット常任副首相は、2025年の経済成長率が5%に達する見通しであると発表いたしました（2024年の6%からやや減速）。これは、タイとの国境紛争や米国による19%の関税措置の影響によるものと説明されています。同氏は、国民一人当たりGDPが2025年には約3,000ドルに上昇すると見込まれており、2024年の2,713ドル、2023年の2,520ドルから順調な上昇を続けていると述べました。経済財政省の報告によりますと、2025年は工業部門が7.1%、サービス部門が3.8%、農業部門が0.9%の成長を見込んでおり、特に縫製業や建設業、観光業が引き続き主要な成長エンジンとなる見通しです。

## 2025年10月10日

### カンボジアの対米輸出額、90億ドルを突破



出典：Cambodia's exports to US shoot to over \$9 billion

2025年1~9月のカンボジアの対米輸出額は約92億8,000万ドルに達し、前年同期比22%増を記録しました。米国は引き続き同国最大の輸出先であり、主力品目は衣料品、靴、旅行用品、自転車などです。輸入は機械や農産品を中心に約2億8,000万ドルで46.9%増加しました。サン・チャンソール副首相の交渉により、米国の関税は36%から19%へと引き下げられ、輸出競争力を大きく強化。専門家はこれを「持続可能で高付加価値な産業転換への好機」と評価し、両国間の経済連携深化に期待を寄せています。

## 2025年10月10日

### フン・セン氏「リエル使用で経済主権を守れ」



出典：[Use Riel to protect economic sovereignty, Hun Sen says](#)

フン・セン上院議長兼国家代行元首は、国内でのタイ・バーツ使用が経済的・政治的リスクを伴うとして、カンボジア・リエルの利用拡大を国民に呼びかけました。ポイペトでは呼びかけ直後からリエルへの両替が進み、同氏は「自国通貨の使用は金融損失を防ぎ、外国通貨への依存を減らす」と強調しました。カンボジア銀行協会もこの方針を支持し、リエルの利用拡大が経済主権と金融政策の自由度向上につながると述べています。現在、国内流通の約85%を米ドルが占める一方、リエルは15%前後にとどまっています。国立銀行は国境地域の銀行や両替業者に対し、公正な為替レートでのバーツからリエルへの交換を指示し、通貨主権の強化を進めています。

## 2025年10月09日

### 世界銀行、カンボジアの2025年成長率見通しを4.8%に上方修正



出典：[WB lifts Cambodia's 2025 growth forecast to 4.8%](#)

世界銀行は最新の地域経済報告で、カンボジアの2025年の経済成長率を4.8%へ上方修正しました。堅調な国内需要と政府の安定した経済運営により地域平均を上回る成長が続く見通しです。一方で、米国の関税引き上げなど外的リスクへの懸念も示されました。繊維産業への依存が高い中、輸出多角化や人材育成、投資環境の改善が今後の課題とされます。

## 2025年10月08日

### カンボジアの農産物輸出、9か月で30%増の約40億ドルに到達



出典：[Agri exports up 30%, generates nearly \\$4 billion in nine months](#)

カンボジア農林水産省の報告によると、2025年1~9月の農産物輸出は約1,113万トン、前年同期比30.4%増となり、収益は約38億9,000万ドルに達しました。主な輸出品はキャッサバ、カシューナッツ、マンゴー、バナナ、トウモロコシなどで、米以外の作物が23億8,000万ドルを占めました。フレッシュキャッサバの輸出は減少した一方、乾燥・加工品は大幅に増加。政府は輸出先多様化と付加価値化による持続的成長を目指しています。

## 2025年10月03日

エア・カンボジア、プノンペン～東京直行便を2025年10月26日に就航



出典：[Minister: Air Cambodia to launch direct Phnom Penh-Tokyo flight on 26 October 2025](#)

観光省のフォット・ハク大臣は、エア・カンボジアが2025年10月26日よりプノンペン～東京（福州経由）の直行便を開設すると発表しました。運航は週3便（水・金・日）で、プノンペン発9:45／東京着19:00、東京発20:00／プノンペニ着翌3:00のスケジュールです。民間航空局によると、福州での短時間乗り継ぎにより、カンボジアと日本間の移動がより迅速かつ便利になります。

## 2025年10月01日

ADB、カンボジアの2025年成長率を約5%に下方修正も「堅調維持」



出典：[ADB pegs Cambodia's growth at nearly 5 percent for FY2025](#)

アジア開発銀行（ADB）は最新報告で、カンボジアの2025年GDP成長率を4.9%（従来6.1%）に下方修正しました。タイ国境問題や米国市場の不確実性が要因とされますが、産業・農業の堅調さや物価安定により経済は依然強固と評価されています。インフレ率は約2%に低下し、縫製業や農産物輸出が成長を牽引。専門家は、財政健全化や人材育成、再生可能エネルギー投資の推進が中長期的な安定成長の鍵になると指摘しています。

株式会社GCCジャパン  
〒107-0062 東京都港区南青山2-23-8  
外苑ビル8階  
TEL:03-5927-1882  
E-mail: central@gccjapan.co.jp

